

研究室から

大学はいま

遺伝資源。聞き慣れない言葉かもしれません。人類は

これまで、パンや小麦やトマトなど、見た目も特性も異なる多種多様な農作物や品種を利用していました。こうした

違いは全て遺伝的な違いに由来するもので、太古の時代に突然変異や自然淘汰によって創り出されました。遺伝資源

遺伝資源一。聞き慣れない言葉かもしれません。人類はこれまで、パンや小麦やトマトなど、見た目も特性も異なる多種多様な農作物や品種を利用していました。こうした

岐阜大応用生物科学部
生産環境科学課程
応用植物科学コース

山根京子准教授



とは「人類が活用できる価値を有する遺伝素材」を意味し、遺伝的多様性の価値を表現した言葉といえます。つまり私たち人類は、さまざまな遺伝資源を利用して、そこから多くの恩恵を受け、繁栄を遂げてきた生物なのです。

近年食料の安定供給が急務となり、これ

まで以上に遺伝資源の重要性が見直されています。当研究室では、遺伝資源の探索、収集、基盤情報の整備や遺伝的多様性の評価を行っています。遺伝情報や機能性成分などの特性情報を収集する中で、私たちがまだ開拓できていない多様な個体群の存在が明らかになりました。その価値は高まる一方となっています。

ところが、こうした人類の

財産ともいえる植物資源は、環境の悪化などにより地球上から急速に失われつつあることも分かってきました。当研究室では、ワサビ属植物の系統維持を研究室内外で実施しています。長い進化時間の間に蓄積された多様性を復元することは今の技術では不可能です。だからこそ、現在の多様性を維持することが重要になります。全国各地で保全活動も実施し、貴重な資源を未だにつなげるための取り組みにも力を入れています。

遺伝資源で食を安定供給